

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年11月25日

J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

① 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰式 全6部門で個人・団体計35名が受賞

10月9日、鳥取県庁で優秀な農林水産業者を表彰する鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰式が開催され、平井鳥取県知事より表彰状が手渡された。

昭和37年より毎年、県内農林水産業の持続的な発展や安定的な経営などに功績のあった優秀な農林水産業者が表彰されている。今年は大山町の馬田雄一郎さんが農林水産大臣賞を受賞した他、全6部門、個人・団体より計35名が受賞した。J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長も農林水産業功労者を受賞した。



平井知事は「今後の農業を背負っていく担い手として期待している。農林水産業の素晴らしさを多くの人に知ってもらえるよう食パラダイス鳥取県を盛り上げてほしい」と期待を込めた。受賞した栗原会長は「J A 自己改革の取り組みを通じ、情報発信や担い手訪問を生命線として取り組んできた。農業所得の増大や持続可能な農業の実現、J A 組織基盤の確立に向けサポートしていきたい」と話した。

② J A グループトップ広報 栗原会長と水稻生産者 馬田雄大さんが説明

J A グループ鳥取は10月9日、倉吉市の県立農業大学校でJ A グループトップ広報「食パラダイス鳥取県みらい宣言」を開催した。栗原会長が生産者との対話活動の一環で取り組んでいる担い手訪問などを通じ、農畜産物の適正な価格転嫁に向け相互理解の重要性、農林水産省が推進する「フェアプライスプロジェクト」、県が推進する「食パラダイス鳥取県」との連携の重要性を伝えた。今回のトップ広報は同校卒業生で、水稻生産者の馬田雄大さんが生産現場の実態を発信した。



将来の担い手として期待される同校の学生約20名が参加。栗原会長と馬田さん、学生との意見交換会も行われた。学生からは「将来の担い手として消費者に対してできることは何か」と質問があり、栗原会長は「生産現場の実態を知ってもらうために、収穫体験やJ A 直売所での販売促進など消費者との交流を進めていくことが相互理解につながる。そこはJ A も一緒になって取り組んでいく」と答えた。

栗原会長は「学生から花卉と畜産分野での消費者との交流体験の要望もあった。県民の食や農に対する理解や共感が得られるよう、関係機関を巻き込みながら発信することが重要だ」と話した。

(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

令和6年度鳥取県畜産共進会

10月26日、琴浦町の鳥取県中央家畜市場で「令和6年度鳥取県畜産共進会」が開催された。今年は乳牛の部に41頭が出場し、酪農家が各部門のチャンピオンを目指し競い合った。当日は秋晴れのもと、手入れの行き届いたすばらしい乳牛達が数多く出品された。審査の結果、農林水産大臣賞ならびに経産牛チャンピオンに琴浦町の陰山晃司さんの乳牛が選ばれた。今後も乳牛の資質向上と改良増殖、酪農の安定的な発展につながるよう取り組んでいく。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

「京都生協」「コープしが」の組合員大感謝祭に参加

鳥取県畜産農協は10月26日、27日の両日に「京都生協」と「コープしが」において開催された「組合員大感謝祭」に参加した。鳥取県畜産農協の職員がそれぞれの生協の店舗に直接出向き、産直鳥取牛の試食販売を実施した。今後も定期的に職員が出向いて直接消費者と触れ合うことや販売店の現場の担当者との情報交換を行うことによって、産直牛の意義や特徴を理解していただき、鳥取県産牛の普及に努めていく。



(4) JA全農とっどりの取り組み

①阪神甲子園球場で星空舞ブースを出展

JA全農とっどりは9月29日、阪神甲子園球場で星空舞ブースを出展した。

ブースでは、新米の星空舞を使用した塩おにぎりの販売を行った。大変好評で予定時間よりも早い完売となった。

おにぎりを購入した方には、「新米があたるかも！星空舞重さあてゲーム」にも参加していただき、100gをピタリと当てた方には新米2kgをプレゼントし、幅広い世代の方にPRした。



②アメリカで二十世紀梨のトッププロモーションを開催

JA全農とっどりは10月14日、アメリカ・ロサンゼルス市のTOKYO CENTRAL GARDENA（トーキョーセントラルガーデナ店）にて、二十世紀梨のトッププロモーションを行った。平井鳥取県知事その他、全農とっどり職員が参加した。

アメリカ向けには昭和44年から二十世紀梨を輸出しているが、ロサンゼルスでのトッププロモーションは初めての実施となった。

当日は試食やノベルティ配布を行い、二十世紀梨特有のジューシーさ、爽やかさ、シャキシャキな食感を多くの方に感じていただいた。

本年のアメリカ向け二十世紀梨は、カルフォルニア、ハワイ、グアムで販売している。



(5) J A鳥取信連の取り組み

農業者の所得向上にかかる諸施策について

J A鳥取信連では、農業者に対して農業関連資金の借入負担の軽減を図ることで、その経営をバックアップし農業所得向上に資することを目的として、以下の施策を講じている。

本施策実施にあたっては、チラシ・ポスターによる周知のほか、J Aおよび同会担当者による農業者への同行訪問等により、その活用を促している。

1. J Aバンク利子補給制度

平成27年度より、農林中央金庫と連携し農業関連資金の融資について、借入額100万円以上を対象とし、当初3年間（農業近代化資金は5年間）を無利息とする対応を行っている。

【利用実績】

(単位：件、千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用件数	1,062	1,086	1,047
利子補給額	13,090	14,125	16,305

※各年度の利子補給対象期間は、毎年1月から12月までの1年間。

2. 農業近代化資金への保証料助成

平成30年度より、鳥取県農業信用基金協会への一括前取保証料全額を本会負担としており、上記1のJ Aバンク利子補給制度と併せて利用した場合、5年間実質金利負担はゼロとなる。

【助成実績】

(単位：件、千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象件数	83	90	84
保証料助成額	5,455	6,252	8,227

※各年度の保証料助成対象期間は、毎年2月から翌年1月までの1年間。

(6) J A共済連鳥取の取り組み

「J A共済カウンターセールスロールプレイング鳥取県大会」を開催

J A共済連鳥取は10月9日、ホテルモナーク鳥取で「令和6年度J A共済カウンターセールスロールプレイング鳥取県大会」を開催した。窓口担当者の知識と意識の向上、商品・サービスの提案力強化を図る。

長期部門は「LA再訪問のアポ取り」、短期部門は「自動車共済のグレードアップ提案スキルの向上」を目的に取り組んだ。また、

「世帯保障台帳を読み解く力」もテーマとして設定し、お役立ち情報等の声掛けを行った。各J Aより選抜された計9名の職員により、活発なロールプレイングが行われた。現在の加入内容から不足する保障に気づいてもらうため、チラシや情報・言葉の表現など、どの職員も工夫を凝らした伝え方で、日頃の成果が存分に発揮された大会となった。

今後も請求漏れの確認や不足する保障の情報提供と提案によって、組合員・利用者により安心と満足を提供できるよう、積極的に取り組んでいく。



以上